

【お知らせ】性能証明の更新資料について

前号で、証明の更新時にご提出いただく資料として、証明取得時からの施工実績等があるとお伝えしましたが、本号ではその内容等について説明させていただきます。

資料構成

0.表紙

1.施工実績件数一覧表（書式-1）

⇒直近3年間の実績件数。建築物や工作物の規模によって年毎に記載していただきます。

2.施工実績一覧表（書式-2）

⇒直近3年間の実績一覧。案件毎の建築規模や施工深さ等、適用範囲内で施工されているか確認します。

3.指定施工会社一覧表（書式-3）

⇒証明取得時からの一覧。会社毎の施工件数や指定施工管理者数を確認します。

4.指定施工管理者一覧表（書式-4）

⇒証明取得時からの一覧。書式-3と整合しているか確認します。

5.講習会等実施実績一覧表（書式-5）

⇒直近3年間の講習会等の実施一覧。指定施工管理者が講習を経て認定されているか確認します。

6.製造実績一覧表（書式-6）

⇒直近3年間の製造実績一覧。自社製造の場合のみ必要となる書式となり、工法が定める仕様通りに製造されているか確認します。

7.その他（書式-7）

⇒証明工法が最新版のJISに適合しているか、証明工法を適用範囲外で使用していないか等の確認を行います。

【お知らせ】性能証明の更新資料について

更新時によくある質問を以下に示しますので、更新時提出資料作成時にご参考ください。

書式-1

Q. 工法協会内では年度毎に実績をまとめていますが、年毎に直す必要はありますか。

A. 原則年毎としていただきたいですが、件数が多くまとめるのに時間を要するようでしたら年度毎で結構です。

書式-2

Q. 守秘義務の観点から物件名を正式に記載出来ないのですが問題ないでしょうか。

A. 問題ありません。その場合は、「A邸」等で記載いただく形をお願いしています。

書式-2

Q. 建築物の規模について詳細まで記載できない場合はどうすれば良いですか。

A. まず、大前提として適用建築物であることは確認されている必要があります。確認されている場合は「○」等を記載していただき、適用範囲内であることを確認している旨注意書きで示してください。

書式-3・4

Q. 指定を取り消した場合はどのように記載すれば良いですか。

A. 灰色で塗潰しを行う等、分かるように記載いただければ問題ありません。

【お知らせ】性能証明の更新資料について

書式-4

Q. 認定施工管理者の所属先が変わった場合はどうすれば良いですか。

A. 指定解除を行わないのであれば、新しい所属先に記載していただき、書式-3と人数が整合していれば問題ありません。

書式-5

Q. 施工指針には記載していませんが、指定施工管理者の資格更新を行っている場合はどうすれば良いですか。

A. 更新の講習会ということが分かるように記載をお願いしています。

書式-7

Q. 適用範囲外の使用とはどのようなケースですか。

A. 建築主の了解のもと、工法として規定している適用建築物や仕様を超えて使用した場合該当します。適用範囲外で使用した場合は、どのように適用範囲外となったか内容も記載してください。

なお、今回記載させていただいた内容はあくまで一例となりますので、そのほかにもご不明な点等ございましたら、ご連絡ください。

【技術コラム】基礎評価の種類について

基礎の図書省略では、工法により3つの評価方針が定められています。今回はその違いについて紹介します。

方針1

埋込みぐい工法や回転貫入ぐい工法あるいはこれらに類する工法で、比較的新しい技術を導入した工法を対象とした評価方針。

既製コンクリートぐい、鋼管ぐい、H形鋼ぐいおよびこれらに類するぐいであり、ぐい体の許容耐力が明らかなもの。また、前述の基礎ぐいに、主として地盤の許容支持力の増大を目的とした機構を組み込んだぐい、または加工を施したぐいも該当します。

方針2

節ぐいを用いた埋込ぐい工法に限定した評価方針。

既製コンクリート節ぐいであり、ぐい体の許容耐力が明らかなものが該当します。

方針3

回転貫入ぐい工法に限定した評価方針。

鋼管の先端部等に地盤の許容支持力増大、あるいは、施工時の地盤への貫入性の向上を目的として翼形状等の加工を施したぐいが該当します。

なお、原則として、方針1の申請となりますが、節ぐいや回転貫入ぐいについての大臣認定実績が多いため、方針2および方針3を規定しています。

【技術コラム】基礎評価の種類について

評価方針毎の違いの一覧を以下に示します。

		方針1	方針2	方針3
先端地盤		砂質地盤と礫質地盤で申請を分ける	砂質地盤と礫質地盤で一つの申請とすることができる※3	
支持力係数		試験データが16以下の場合是最小値に低減係数を乗じた値以下に設定する。17以上の場合是最小値を下回るように設定するか、不良率を考慮した統計処理※4を用いて設定する。	試験データの最小値を下回るように設定する。	
試験数	先端地盤種別	最大径かつ最大施工深さ1例以上を含む4例以上	最大節径で3例以上（うち1例以上は最大施工深さ）を含む8例以上	最大径かつ最大施工深さを含む8例以上
	周面地盤種別	8例以上	24例以上	12例以上
その他		工法の特徴に応じて以下の試験等を実施する <ul style="list-style-type: none"> ・くいの特殊部分の性能確認 ・くい先端根固め球根の性能確認 ・セメントミルク等によるくい周固定層の性能確認 	くい先端根固め球根等の性能確認試験	基礎ぐいの翼部等の性能確認試験

※3 砂質地盤および礫質地盤を先端地盤とした載荷試験結果に有意な差がなく、同一の支持力係数を採用する工法に限る。

【技術コラム】 基礎評価の種類について

(前ページからの続き)

※4 17以上のデータがある場合は、以下の式を満たすように設定することも可能である。

$$\alpha \leq \bar{\alpha} - k\sigma_{\alpha}$$

α : くい先端支持力係数

$\bar{\alpha}$: 載荷試験結果から得られたデータによる(q_p/\bar{N})の平均値

k : 載荷試験結果から得られたデータ数に応じて定める係数

σ_{α} : 載荷試験結果から得られたデータによる(q_p/\bar{N})の標本標準偏差

なお、上記については β および γ も同様の設定が可能です。

【お知らせ】 前号の記載誤りについて

前号にて「改定・更新手続きについて」を紹介させていただきましたが、更新の対象となる工法について一部誤りがありましたので訂正させていただきます。

誤 : 杭工法・地盤補強工法・地盤改良工法のうち
正 : 地盤補強工法・地盤改良工法のうち

誤った情報をお知らせしてしまい申し訳ありませんでした。以降このようなことが無いよう気をつけさせていただきます。

対象メルマガURL :

https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/shomei_info22.pdf

【お知らせ】 建築技術セミナー開催報告

前号でもアナウンスさせていただきました、2/22 (水) に開催の建築技術セミナー (大阪会場) について、今回は基礎関係の先生にもご講演いただき、盛況の中終了いたしましたことをご報告させていただきます。

受講者の皆様には寒い中お越しいただき誠にありがとうございました。引き続き東京会場 (定員に達したため締切) でも開催いたしますので、既に申込みいただいている方々は、もう少々お待ちください。

寒い時期から花粉が飛ぶ季節に変わりつつありますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。最近では花粉症の症状が出てこなくなってきたり少し楽になってきていますが、これがいいのか悪いのかは判断が難しく考えております (体調的には楽になりますので嬉しい限りではありますが...)。さて、以降告知となります。弊所下平がGBRC機関誌191号 (2023年1月発行) に「先端翼付き鋼管杭の先端翼耐力に関する基礎的検討 (その2 : 弾性支承上の円盤の場合)」を寄稿しました。もしよろしければご一読いただき、検討の参考にいただければ幸いです。 (編集後記 : 志手)

発行者 : 一般財団法人 日本建築総合試験所
建築確認評定センター 性能評定課
担当 : 岩佐、志手
TEL : 06(6966)7600 FAX : 06(6966)7680
E-mail : seinou@gbrc.or.jp